

# 教科教育における言語活動の促進と 実践事例の定型化について

キーワード 思考力・判断力・表現力、話し合い活動、ワークシート、ICT活用

学校名 文京区立第六中学校

所在地 〒113-0023  
東京都文京区向丘1-2-2

ホームページ  
アドレス <http://www.bunkyo-ky.ed.jp/dairoku-jh/>

## 1. 研究の背景

### ○ 経緯：

本校では、平成 25 年度の新校舎移転に併せた全普通教室への電子黒板導入を契機とし、校内研修のテーマとして ICT 活用に取り組んできた。平成 26 年度には、パナソニック教育財団実践研究助成を活用し、生徒の自己評価・相互評価環境の充実をテーマとし、タブレット PC の活用等に取り組んだ。本研究では、これまでの取り組みで確認できた有用性をもとに取り組みを発展させ、ICT 機器を自他の評価ツールという位置づけから言語活動へ扱うツールへと範囲を広げるものである。その結果を他教科、他校でも展開しやすい取り組み事例の定型化を行いたいと考えた。

### ○ 現状と課題：

実技教科では、技能向上や記録を意図したタブレット PC の活用が進んでいる。教師・生徒双方でタブレット PC を用いることにより、改善の方向性が明確になり、意欲や技能といった学習効果の高まりに繋がっている。また、理科における実験・観察結果のまとめ発表や数学におけるグラフ学習では、タブレット PC で記録したデータを加工しプレゼンテーションまでを行う言語活動活性化ツールとしても活用が進んだ。しかし、限られた台数のため 1 グループの人数が多く、グループワークの制約に繋がるとともに、同時間帯に 1 授業でしか使用できないことが問題になってきた。このため、主として言語を扱う国語や英語、社会といった教科での活用例検討や実践進行が進みづらい現状に繋がっている。

また、全国学力・学習状況調査 生徒質問紙の結果から、意見をもつ、書く、説明したり発表したりするという活動はあまり難しいと感じていない反面、協働して問題解決を行い、発表する機会が少ないと感じている生徒が多く、その結果、話し合いを通じて考えを深めたり広げたりすることに弱さを感じられることがあった。

ここから、課題として、「思考力や表現力を育む手段としての言語活動に注目し、活性化させることで育てたい力を伸ばすこと」、「学びの目標を明示して意識付けを行い、主体的に授業に参加して学ぼうとする態度をそだてること」を設定し、研究を進めるものとした。

## 2. 研究の目的

今回の研究では、学習指導要領において各教科で重視されている「言語活動」をキーワードに、実践を通じて課題解決に必要な思考力、判断力、表現力を育成するための教材や ICT 機器の有効活用について、指導事例の構築と定型化を進めるものとした。また、成果は教科間、学校間でも展開しやすいよう評価の考え方、場面設定、必要機器、注意点等をまとめ、広く公開していくことを前提に活動した。

## 3. 研究の経過

まず、学校全体としての、これから育てたい力（資質・能力）を設定した。

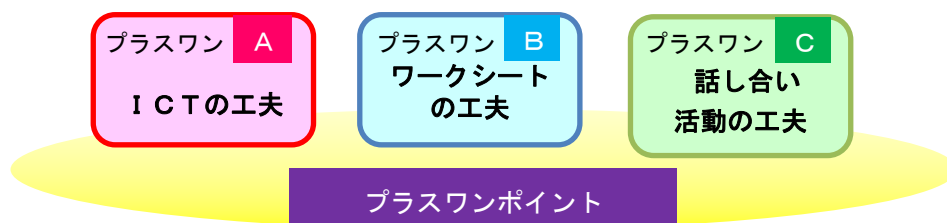
- 自分の考えと他者の考えを比較、分類、関連づけなどを行い、考えを深める力（思考力）
- それぞれの考えの異同を整理し、自分や集団の考え方を発展させる力（表現力）
- 生徒自身が見通しをもって授業に取り組み、学んだ内容を確認する態度（主体性）

次に、各教科での共通の検討内容をまとめた。

- 教科としてつけたい力、目標を明らかにする
- 学びのめあてや過程を示し、意欲を高める
- 基本となる知識、技能を学ぶ
- 主体的に自分の考えをもち、表現する
- 他者との交流を通して思考を広げ、深める
- 学んだ内容を振り返り、確認する
- ICTを効果的に活用する

その上で、授業形式により「一斉」「習熟度別」「実技」の3つの分科会に分け、「身につけさせたい力」、「他の授業と異なる具体的な工夫」、「ICTの活用」について情報の共有と意見交換を実施した。

これらの活動をもとに、各教科での育てたい力を育成する授業検討を進めた。本校アドバイザーである信州大学教授村松先生よりご講義をいただき、「教科の本質的な思考」から問い直す活動を実施した。改めて学習指導要領を読み込み、「教科の本質的な思考」を設定し、指導計画やワークシートの工夫点など具体的な指導方法に落とし込むことにより、各教科で検討すべき方向性をより明確にしていった。授業実践の検討にあたっては、言語活動の活性化に対する取り組みを「A：ICTの工夫」、「B：ワークシートの工夫」、「C：話し合い活動の工夫」という3つのポイントに分け、全教員が「プラスワン授業」として実施することとした。その実践を相互に観察し、成果と課題を明らかにした上で次の授業に反映して実践事例を積み重ねた。



具体的な検討を進めるにあたり、学習指導要領で各教科の本質的な思考を確認し、それを土台としてPDCAサイクル意識しながら授業実践を繰り返し、育てたい力を伸ばす活動を続けた。

表1. 研究の経過 (H27年度)




時期	取り組み内容	評価のための記録
4月	研究推進委員会発足・教員への活動周知 全国学力状況調査	質問紙結果(生徒)
5月	研究推進計画の確定	
6月	研究推進環境の整備(HW・SW)	
7月	各教科での計画検討・分科会発足	校内事例(各教員)
8月	校内研修(校内事例説明)	
9月	校内研修(言語活動関連講義受講)	
10月	校内研修(分科会 考える授業実践報告)	
11月	校内研修(研究授業、アドバイザー講義) 学校評価アンケート	観察・記録(生徒・授業者) アンケート調査(生徒)
12月	区教委教育指導課の授業観察と指導助言	観察・記録(生徒・授業者)
1月	授業公開(実践研究・区中研・東京教師道場)	
2月	校内研修(研究授業、アドバイザー講義)	
3月	今年度振り返りと次年度計画検討	

表2. 研究の経過 (H28年度)

時期	取り組み内容	評価のための記録
4月	校内研修(今年度活動+アドバイザー講義) 学力状況調査	質問紙結果(生徒)
5月	プラスワン授業検討・実施	検討シート(各教員)
6月	プラスワン授業実施・校内研修(校務システム)	観察・記録(生徒・授業者)
7月	プラスワン授業実施・校内研修(夏季課題)	観察・記録(生徒・授業者)
8月	各教科でのプラスワン授業振り返り	検討シート(各教員)
9月	校内研修(研究授業+アドバイザー講義)	観察・記録(生徒・授業者)
10月	各教科でのプラスワン授業実施	観察・記録(生徒・授業者)
11月	区教委教育指導課の授業観察と指導助言 学校評価アンケート	観察・記録(生徒・授業者) アンケート調査(生徒)
12月	校内研修(教員用タブレットPC応用)	
1月	プラスワン授業実践・公開研究会準備	観察・記録(生徒・授業者)
2月	公開研究会実施	観察・記録(生徒・授業者)
3月	今年度まとめと来年度研究計画策定	

#### 4. 代表的な実践

ここでは、プラスワン授業の実践について代表的なものを紹介する。

<h3>国語</h3> <p>第2学年「ピリオバトル」 互いの意見を発表し合い、考えを深めよう</p>	<h3>理科</h3> <p>第3学年「地球と宇宙・季節の変化」 季節の変化が生じる原因について考えよう</p>	<h3>技術</h3> <p>第2学年「製品CMの作成」 デジタル作品の設計・制作をしよう</p>
<p><b>身につけさせたい力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料を効果的に活用して話す力</li> <li>互いの発言を検討して自分の考えを広げ深める力</li> </ul> <p><b>プラスワンポイント</b></p> <p><b>A. ICTの工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>PCを用い、ピリオバトル専用のタイマーを設置することで、生徒の発表が効率的に進められるようになる。</li> </ul> <p><b>C話し合い活動の工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>男女のバランスを考慮し6人1グループの班編制とする。</li> <li>一人あたりの発表は本の紹介(3分)→質疑応答(2分)</li> <li>質疑応答では、司会を割り振り、進行を円滑に進める。</li> </ul>	<p><b>身につけさせたい力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実験結果から分かることを見いだし、論理的に表現する力</li> </ul> <p><b>プラスワンポイント</b></p> <p><b>A. ICTの工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>データ参照にタブレットPC(生徒用)を使い、実際のデータをもとに考えを深めることができるようにする。</li> <li>各班の考察を発表する時にタブレットPC(教員用)を使い、電子黒板に大きな画面を写しながら説明できるようにする。</li> </ul>	<p><b>身につけさせたい力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新しい発想を生み出し活用する力</li> </ul> <p><b>プラスワンポイント</b></p> <p><b>B. ワークシートの工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>分析・検討の視点が明確になるような枠組みを構成する。</li> </ul> <p><b>C話し合い活動の工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人の発想とグループでの共有・協働が進めやすいように、4人1グループの班編制とする。</li> </ul>
<p><b>導入</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ピリオバトルの目的とルール等の注意点を確認する。</li> </ol> <p><b>A ICT</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ノートPCを用い、ピリオバトル専用のタイマーを設置する。 ※①</li> </ol> <p><b>C話し合い</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>本の紹介をする。→質疑応答</li> <li>生徒同士で意見を交換し合い、ワークシートに記入する。</li> </ol>  <p><b>自分の考えを再構築する</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>発表の内容をもとに、班の中で最も優れていた発表者(チャンプ)を決定する。</li> </ol> <p><b>自己の姿容などを振り返る</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>話し合い活動を通じ、自身の視点、考えを深められたか、感想をワークシートに記入する。</li> </ol>	<p><b>導入</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>前時の実験の復習をし、太陽の動きについて復習する。</li> </ol> <p><b>A ICT</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4人ごとの班に分かれ、班に1台タブレットPCを配布。タブレットPCのデータを見ながら、「なぜ季節の変化が生じるのか」を考え、自分の意見をまとめる。 ※① ※②</li> <li>タブレットPCを活用し、班員各自が自分の考えを説明し合い、考えを共有し、班ごとに考察をまとめる。 ※②</li> <li>電子黒板にタブレットPCの画面を映す。タブレットPC上で説明に必要な内容を随時書き込みながら、班の考察を発表する。 ※① ※③</li> </ol>  <p><b>自分の考えを再構築する</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>班での話し合いや各班の発表をもとに季節が変化する原因について再度考え、考察をワークシートに記入する。</li> </ol> <p><b>まとめ</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>地球が地軸を傾けたまま公転しているため、太陽の南中高度が異なり、季節の変化が生じることを学ぶ。</li> </ol>	<p><b>課題の把握</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>生活の中で目にするCMを観察する。 ※①</li> </ol> <p><b>B ワークシート</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>CMから読み取った制作側の意図(誰に、何を、どのように伝えようとしたのか)を考える。</li> </ol> <p><b>C話し合い</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを発表し合い、質問や意見を交換し、グループで出た意見をまとめる。</li> <li>全体に対して発表する。 ※②</li> </ol>  <p><b>自分の考えを再構築する</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>意見交換で得た視点をもとに、自分たちが制作するCMの案案を考える。 ※② → ①</li> </ol> <p><b>振り返り自己評価</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>話し合い活動を通じ、話し合い活動や、自身の視点、発想が広がったか自己評価を行う。</li> </ol>
<p><b>※利用したICT機器</b></p> <p>① 教師用ノートPC 教師：全体への提示用</p>	<p><b>※利用したICT機器</b></p> <p>①電子黒板 教師：全体への提示用 ②タブレットPC(生徒用) 生徒：資料の参照 ③タブレットPC(教員用) 生徒：全体発表</p>	<p><b>※利用したICT機器</b></p> <p>①電子黒板 教師：全体への提示用 ②タブレットPC 教師：生徒の意見の収集</p>
<p><b>※成果と課題</b></p> <p>成果：自分の意見と比較することで、読書習慣を見直し、考えを深められた。 課題：スピーチの展開と工夫について学習する時間を増やす。</p>	<p><b>※成果と課題</b></p> <p>成果：生徒がタブレットPCを活用することで話し合いの活性化につながった。 課題：意見をまとめる場面での工夫があると、より効果的な学習につながる。</p>	<p><b>※成果と課題</b></p> <p>成果：自分だけでは気づかない視点や、発想のヒントを得られた。 課題：分析で出た観点をグループ化して整理し、思考を視覚的に捉えやすくする。</p>

## 5. 研究の成果

これまでの取り組みから成果をまとめると、次のような点が挙げられる。

### ① 協働して問題解決に取り組み、発表機会が増えたと感じる生徒の増加

全国学力・学習状況調査生徒質問紙の結果から、課題となっていた言語活動の活性化実感している生徒が増加していることが確認できた。

問 1, 2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。

	当てはまる	どちらかと言えば 当てはまる	どちらかと言えば 当てはまらない	当てはまらない	その他・無回答
平成28年度	38.7	45.0	15.3	0.9	0.0
平成27年度	14.2	47.2	30.2	8.5	0.0

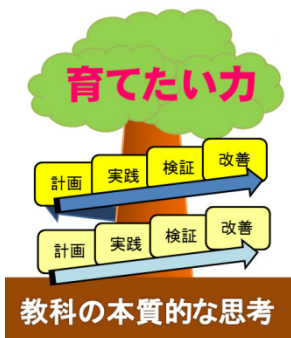
(%)

問 1, 2年生のときに受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか。

	当てはまる	どちらかと言えば 当てはまる	どちらかと言えば 当てはまらない	当てはまらない	その他・無回答
平成28年度	26.1	55.0	18.0	0.9	0.0
平成27年度	17.0	45.3	30.2	7.5	0.0

(%)

### ② 各教科における身につけさせたい力を意識した授業の実践と改善



各教員が育てたい力を明確にし、言語活動の工夫を通じて授業の改善に取り組む活動が進んだ。検討の定型化が進んだことにより、PDCAを進めやすくなった。成果は、他校から複数の問い合わせにつながり、ノウハウの展開を実施している。

- ・ 各時間の目標の明示
- ・ 学んだ先にあるものの説明、提示
- ・ 生徒が主体的に学べる授業の検討
- ・ 生徒の意見の共有方法の検討
- ・ 成果の確認方法の検討

### ③ 授業を支援するためのICTの活用

全体への情報提供方法としての電子黒板の活用の検討が進み、全教員が使用している。また、文京区では平成28年度より各教員1人1台タブレットPCが配備されたのと同時に、デジタル教科書も全教科で導入され、活用が進んでいる。さらに、今回の研究により生徒用タブレットPCが4人グループで1台使用できるようになったため、情報取得、加工、まとめ、発表するまでの思考力・表現力を育成する授業への活用が進み、各教科でのプラスワン授業の検討・実践事例としてまとめられた。

## 6. 今後の課題・展望

### ① 学習効果の検証

これまでの取り組みが、育てたい力の育成に効果的であったのかを検証し、更なる改善を進める予定である。平成29年度実施予定の生徒向けの学校評価アンケート、全国学力・学習状況調査、7月実施の教科公開授業アンケート結果、その他各教科の評価結果より検証を進める。

### ② より効率的、効果的な授業実践のためのカリキュラム検討

話し合い活動のルール、ICT機器やソフトウェアの扱い方など、教科を横断して使える基本的な知識や技能について、いつ、どの教科で学習すべきなのか検討していくことが必要だと考える。そのために、現時点で行われているカリキュラムをまとめており、平成29年度の校内研究活動に活用していく。これにより、カリキュラムマネジメントの視点も盛り込み、教科にとどまらず全校としてのカリキュラム改善も見込めるものとする。

## 7. おわりに

今回、2年間に渡る研究を通して気づいたことは、如何に全校体制として研究推進ができる環境を整えられるかであった。その点で、「プラスワン授業」という用語を創造し、何をするのかをシンプルに定型化しイメージづくりをすることができたことは、研究のスピードを上げる上で重要なポイントであった。また、スケジュール上、1月～2月に研究のまとめの山場を迎えることになるが、3年生担当教員は生徒への進路指導や事務作業により、十分な研究推進の時間が取れないことが予想されたため、年度当初の計画段階から配慮が必要であった。これらは、色々な立場の視点から気づくことが出来ることなので、研究推進の体制についても広い視野でカバーできる立場の人員が必須であると感じた。

最後に、アドバイザーとして研究活動を支えていただいた信州大学教育学部附属次世代型学び研究開発センター長 村松浩幸 先生、言語活動に関するご講義をいただいたILEC言語教育文化研究所 専務理事 篠田信司 先生、今回の研究に多大なご支援をいただいた公益財団法人 パナソニック教育財団様ほか、関係者の方々に厚く御礼を申し上げます。

## 8. 参考文献

- ・ 文部科学省（2008）「中学校学習指導要領」
- ・ 文部科学省（2011）「言語活動の充実に関する指導事例集」
- ・ 熊本大学教育学部附属中学校 編著「教えたいのは「考え方」です。—思考力を活かす・広げる・深める授業改善—」